

## ほどほどよりメリハリ

今年の正月は、昨年一昨年と続いた子どもの受験から開放され、穏やかにほとんど外出することもなく、自宅でゴロゴロしていました。人間というのは勝手なもので、忙しく仕事に追われているときは、たまにはゆっくりしたいと思うのですが、あまり退屈な日々が続くと、「仕事している時のほうがましやなあ」、ということもあります。

正月にテレビを観ていると、今話題の女性2人がバトルする番組があり、興味深く見ました。経済評論家でビジネス書ではベストセラーを続ける勝間和代さんと、精神科医で大ベストセラーとなった「しがみつかない生き方」の著者である香山リカさんが、お互い譲らず自らの考え方をぶつけ合いなかなか面白かったです。

勝間和代さんは外資系コンサルタント出身で自身は3人の娘を育てながらもバリバリと仕事をこなし、合理的に物事を進め、目標を達成させるための勉強法や思考法を多くの著書で主張し、ベストセラーを連発しているカリスマ的な存在で、勝間和代を目指す「カツマー」と呼ばれる熱狂的なファンも多数います。「自己の能力を最大限にしていく努力」を提唱しています。

一方、香山リカさんは、精神科医として多くの患者さんと接触した体験を基に、努力しても挫折し、精神的なダメージを受ける不幸な人が多いと感じ、「がんばり過ぎないほどほどの生き方」を提唱し、「しがみつかない生き方」の最終章には「勝間和代を目指さない」という結論に導いています。

どちらの主張も聞いていてなるほどと思えるもので、どちらも正しいといえなくもありません。人間の能力や考え方、価値観が多種多様で、裕福でも多くの悩みを抱えている人も居れば、裕福でなくても日々幸福に感じている人も居ます。成功本を読んだから誰もが実行できるのではなく、実行できないから苦しんでいるのかも知れませんが、実行できたとしても必ずしも成功するとは限りません。国民全員が勝間式の生き方をしようと思っても挫折する人も多くいるでしょうし、又「ほどほどの生き方」をすれば国力は衰え、衰退することになるでしょう。

ただ、私は少なくとも人間頑張らなければ成長も成功もあり得ないし、周りに迷惑をかけることも多々あることは間違いなくと思います。逆な言い方をすれば、頑張らないことはむしろ無責任だといえなくもありません。今の日本が経済的に成長し、便利になったのも先人の方々が頑張ってくれたおかげです。そのことには感謝し、自分も頑張っただけでも世の為人の為に貢献し、自分自身も幸福になろうと考えるのはごく自然のことのように思います。

この年末年始は政府による公設派遣村が開設され、度々報道されていましたが、中にはご年配の方で事情があり気の毒な方もいますが、若くて五体満足な人がなぜ？と思えることも多々あります。資本主義社会においては、自由と自己責任というのは裏腹であって、自由だからと定職につかず、スキルを磨くこともなく、ネットカフェや路上で暮らす人がこの豊かな日本で多くおられます。派遣村においても宿泊の期限切れとなればゴネてカプセルホテルを用意させ、就職活動費の名目で2万円を渡した途端に行方不明になる人が続出するなど、国が税金で面倒見るといふことに対しては重みや感謝の気持ちが薄く、限界があると感じざるを得ません。

長い人生の中でのわずか数年、起業や資格取得、スキルアップなど、わき目も振らずに一所懸命頑張った時期があるかどうか、その数年が後々の何十年という長い人生を精神的にも経済的にも豊かにすることもできます。私も資格取得の為に受験勉強で数年間はいろんなことを犠牲にした時期があり、今の私があるのもその数年間の頑張りがあったからとも思っております。

仕事でいえば、「ほどほど」というと何か怠けるとかサボるような誤解を与える可能性があります。要は、皆がカリスマを目指す必要はなく、人は向き不向きがあるので適材適所に、自分の得意な分野を見つける努力と、その分野で自分の為に頑張っただけでも世の中に貢献できればいいのではないかと、というのが両者を足して二で割った結論のように思います。頑張るときは一身不乱に頑張り抜き、抜く時は趣味や運動で大いに抜く、このメリハリが一番大事なあと、ゴロゴロしてテレビを観ながら思いました。